

宝塚市で子どもたちに自然や生き物のおもしろさを伝える

～ しぜんクラブの活動 2017 ～

小野恒義・大倉保子・伊藤則幸・山村 穰・坪井 勲・林 光代・古川清子・岡田義晴
宗像重子・野田昭夫・古澤紀子（フレミラしぜんクラブ）、小島華子（フレミラ宝塚）

はじめに

私たち“フレミラ しぜんクラブ”は、フレミラ宝塚で開講している高齢者大学“いきいき学舎・フレミラ”「環境・自然コース」の卒業生と在校生の任意のグループです。フレミラ宝塚は、宝塚市立の『老人福祉センター』と『大型児童センター』の複合施設です。高齢者と児童が、ふれ合い、未来を築く場所として、相互に交流を深めることを目的に様々な事業が行われています。「環境・自然コース」では、私たちの身近な動植物や環境の変化、生物多様性などについて学びます。そこで学び体験したことを活かして、地域の子どもたちに何か発信したいという思いから、しぜんクラブを立ち上げました。しぜんクラブの目的は、地域の子ども達と一緒に自然を学び、楽しむことです。昆虫や植物など「生き物」に直接触れることで、教科書では学べない自然の不思議や面白さを子ども達に伝えていきたいと思えます。

1年間の活動紹介

<春>

■しぜんとあそぼう春の山野草さがしとヨモギだんごクッキング

（小学生20名とスタッフ15名が参加）

教室で山野草の種類や形状・生態について学んでから、外に出て実際に春の山野草の観察をしました。宝塚で採集したヨモギを使って団子を作り、香りや味を感じながら試食することで、雑草とよばれる身近な植物にも食べられるものがあることを知ってもらいました。

<夏>

■しぜんとあそぼう 虫と葉っぱのワクワク大発見！

（小学生95名とスタッフ20名が参加）

フレミラ宝塚の屋内運動場で行う毎年恒例のイベントです。「カエルのおもちゃを作ろう！」や、「虫の捕り方教室」、「フレミラ昆虫ランド」、「みんなの打ち上げ花火」、「葉っぱの着せ替えカード」、「ひつつきむしダーツ」、「セミ笛を作って鳴らそう！」を実施しました。「虫の捕り方教室」では虫捕り網の使い方から虫の触り方・育て方まで教えます。大きな蚊帳の中に昆虫を入れ、その中に入って直接虫に触ってもらう「フレミラ昆虫ランド」も、とても人気があります。「カエルのおもちゃを作ろう！」では、紙コップとストローを使ってカエルの鳴き声をまねた”ケロケロカエル”を作りました。また貝がらに布を貼りカエルの顔にみたてた”ケロピ ストラップ”も作りました。折り紙を画用紙いっぱい貼って描いた「みんなの打ち上げ花火」もとてもきれいでした。

■葉脈標本の草木染め 葉っぱをある液体につけると・・・ステキな作品ができるよ♪

（小学生20名とスタッフ4名が参加）

ヒイラギモクセイとヒイラギの葉脈標本を、草木染めにしました。前日に水酸化ナトリウム液で煮て柔らかくしておいた葉っぱから葉肉を取り除き、生のヨモギ・タマネギの皮・スオウを煮出して作った染色液で染めました。植物による色の違い、媒染による色の変化を観察し、ステキな作品（夏休みの宿題？）が出来上がりました。

<秋>

■わっしょいフレミラ秋まつり

(来館者が自由参加、スタッフ 22 名が参加)

フレミラ宝塚全体のおまつりに、フレミラしぜんクラブとして出店しました。いろいろな植物のタネを使った「タネのブローチ」は、何のタネか知っているかな？と質問をしても、子ども達は工作に夢中！木の実や枝を使った「自由工作コーナー」、マツカサにフェルトで飾りつけをした「マツカサのツリ」も大人気でした。「ムクロジの羽かざり」では、羽根つきを知らない子ども達に私たちがびっくり！「ひつつきむしのダーツ」はパネルも秋仕様に模様替え、「フレミラ昆虫ランド」は小さい子ども達がチョウやバッタに夢中になっていました。

<冬>

■いきいき Kids キャラバン

(小学生・親子 30 名、スタッフ 6 名が参加)

ひととはくと連携して、宝塚市内の児童館に行ってプログラムを実施しました。今年は山本山子ども館で開催しました。前半は、みんなで外に出て、身近な植物の観察をしたり、草笛、草ずもうなどの草あそびで楽しんだりしました。後半は、「音のなる工作をしてみよう！」をテーマにカエルの工作をしました。

まとめ

ペンネームに”虫”という字を入れるほどの昆虫好きだった手塚治虫が幼少時代を過ごした町、宝塚から、「未来の昆虫・植物博士を育てよう ～学ぶそして繋ぐ次世代の子ども達へ～」をテーマに、これからも楽しんで活動していきたいと思えます。

